

所管事務調査（先進地視察）報告書 教育環境常任委員会

- 視察年月日 平成19年5月16日（水）から17日（木）
- 目的 本委員会が所管する事業及び施策について調査研究するため
- 視察先及び研修事項内容
新潟県上越市 汚泥リサイクルパークについて
〃 保育の現状とファミリーヘルプ保育園について
- 委員 松尾 信介 平林 智江美 浅田 武夫 池部 皓三
岡田 修 大同 衛 松本 信之

【上越市】

1. 視察先 汚泥リサイクルパーク
2. 視察年月日 平成19年5月16日（水） 午後3時～5時
3. 視察テーマ 汚泥リサイクルパークについて
4. 視察内容 汚泥リサイクルパークでは、生ごみ処理・汚泥処理等の概要について説明を受け、その後施設の視察を行った。
5. 視察概要

◎市の概要

平成17年1月1日に14の市町村（上越市、安塚町、浦川原村、大島村、牧村、柿崎町、大潟町、頸城村、吉川町、中郷村、板倉町、清里村、三和村、名立町）の合併が実現し、人口21万都市が誕生した。新潟県南西部の日本海に面し、面積973km²を有している。気候は、典型的な日本海型で、海岸部を除いた地域は全国

有数の豪雪地帯となっている。土地利用を見ると、高田、直江津などが市街地となっているほか、その周辺は宅地化、商業地化が進み、都市的土地利用がなされ、また、東側の地域では、農業を中心とした土地利用が進められている。中山間地では、景観や環境機能を有しており、山地、潟湖、海岸線は県立自然公園に指定されるなど、自然をいかしたレクリエーションの場として活用されている。さらに、多くの工業団地があり、直江津港や高速自動車道など、交通ネットワークを利用した産業も展開されている。

「地球環境都市宣言」の上越市にとって、人口21万市民や観光客の排出するごみ問題が大きな課題となっている。循環型社会の形成に向けて、ごみの減量化や資源リサイクルを推進している。現在、汚泥リサイクルパークは、廃棄物資源化事業の運営に大いに威力を発揮している。

◎視察事項

☆廃棄物の資源化（生ごみ・汚泥）の取り組みについて

（市民参加・市民協働）

☆市民や環境にやさしい汚泥リサイクルパークの取り組みについて

（施設建設・施設維持・施設運営）

汚泥リサイクルパークの原料受け入れ状況は、まず、生ごみの分別と収集状況は、従来の可燃ごみ扱いから、生ごみを分別して袋で週3回収集をして、投入している。一日に生ごみを集める量は約8tから10tで、回収地域は市全体(69,100世帯)のうち40%(26,700世帯)を行っている。

次にリサイクルパークへの汚泥の投入状況は、し尿・浄化槽汚泥合わせて年間73,564kl(1日当たり201kl)を受け入れている。最近は、し尿・単独浄化槽汚泥が減少して、合併浄化槽汚泥が増加している。

バイオガス発生状況は、月発生量は38,997m³でメタンガス濃度は平均60.2%である。メタンガスによる発電量は月発電量(平均)60,005kwhで、これは一般家庭約164軒分の電気使用料に相当する。その電気は売電の他、管理棟内の冷暖房用に利用し、また、発電機のエンジン廃熱を余熱利用として発酵加温槽の加熱用に利用する等、省エネに役立っている。

熔融炉では最終汚泥や発酵不適物をガス化熔融炉でガラス質化(熔融スラグ)し、

建設資材の原料として再生している。

発酵残渣は肥料『エコポン』として、年間約24,000袋/15kg作り、市民に一袋150円で販売している。『エコポン』は口コミで広がって、年々出荷量は増加している。これに含まれる重金属含有量は基準値以下であるが、水田及びビニールハウスでの利用は控えている。

排水対策は、法基準値および自主基準値以下を遵守し、一級河川に放流し、また、施設内の洗浄水などにも再利用している。

汚泥リサイクルパークの収支状況(平成17年度)の内訳は、収入として浄化槽汚泥処理手数料3,600万円、肥料売払収入200万円、売電900万円で合計4,700万円であるが、支出は人件費1億800万円、薬品5,600万円、修繕費1億3,400万円など合計5億9,000万円である。よって市より年間運営管理費として、5億4,300万円を支出している。

この施設は発酵不適物、し渣、不要な汚泥などを焼却するために、ダイオキシン類処理対策に対応したガス化溶融炉を併設し、灰をスラグ化する自己完結型施設のために、高額な維持管理経費がかかっている。

6. 所見

上越市は、バイオマスタウン構想を作成し、その実現に向けて取り組んでいるが、行政は市民一人ひとりを主役とし、市政への積極的な参加を図り、行政との協働推進で、市民本位のまちづくりを進めている。自治体運営の根本を定めたものとして、先に述べた地球環境都市宣言の他に、市民ごみ憲章の制定、環境基本条例の施行、ISO14001の認証、自治基本条例などが施行されているが、循環型社会の形成に向けて取り組む市民を支え、ごみの分別収集、ごみ減量、資源リサイクルなど環境整備の推進の力となっている。

さて、汚泥リサイクルパークは、市内田園地帯に位置しているが悪臭もほとんどなく、し尿処理場のイメージを一新した施設として、市民や小学生の施設見学も数多く行われ、市民に開かれた施設であると感じた。

最近、「ごみ」と「し尿処理」の現状は、生活様式の多様化に伴い、排出される量と共にその質の多様化が著しい。そのために行政が迅速かつ効率的に処理することが求められている。

こうした状況下、上越市の最新鋭の設備を有した汚泥リサイクルパークが、市民の環境保全の最前線基地として役立っている。

汚泥リサイクルパークはし尿処理、焼却処理、生ごみリサイクルなど、最先端の技術を駆使して汚泥の減容化、処理水質の安定化、施設の無臭気対策に万全を期し、新しい廃棄物環境システムを実現している。

京丹後市の NEDO バイオガス施設の状況は、原料として食品残渣を 1 日平均 20 t 受け入れて、メタンガス 1 日平均 4, 0 0 0 m³を発生させている。発酵残渣の堆肥利用は農家の圃場で実験を開始している。

この施設の課題は、排水処理が高額で、現段階で年間維持管理に 1 億円もの赤字が予想されている。改善方法として、排水処理の薬品を見直すことにより約 5, 0 0 0 万円に圧縮できる試算もしている。

また、施設の原料に可燃ごみとして、峰山クリーンセンターに搬入される生ごみの中で約 1, 0 0 0 t について再利用できないか、さらに、竹野川クリーンセンターで焼却処分されている約 1, 2 0 0 t の下水汚泥を投入できないか、発酵残渣の活用など、至急検討する必要がある。

今後、本市にあたっては、年々増加する下水汚泥処理が緊急の課題となっており、竹野川クリーンセンターと現在実験中のバイオマス施設との連携を模索し、循環型の処理システムを構築することに全力を傾注すべきと考える。



高温、高速メタン発酵を行なうツインリアクター

【上越市】

1. 視察先 市役所及びファミリーヘルプ保育園
2. 視察年月日 平成19年5月17日（木） 午前9時30分～11時30分
3. 視察テーマ 保育の現状とファミリーヘルプ保育園について

4. 視察内容

京丹後市では保育ニーズが多様化しているなどの理由で保育所再編計画が検討されている。その一つに、24時間保育も言われており実際に自治体として実施している、上越市の状況を研修した。

5. 視察概要

◎設置の経緯

核家族化や女性の社会進出あるいは就労形態の多様化による社会環境の変化は著しく、従来の保育サービスが実際の育児家庭の実情に追いついていない現状がある。育児と社会的活動などとの両立の難しさが、少子化の一つの要因になっていると考えられる。そんな中、いつでも安心してこどもを預けることが出来る機能をまちの一部に備えたライフラインとしてのファミリーヘルプ保育園が設置された。

施設は民間の建物を市が譲り受け、リフォームし利用している。

◎事業概要

・対象者

市内に住所を有する生後8週間から就学前までの乳幼児の保護者で、就労、疾病、介護、災害等で緊急又は一時的に保育ができず、かつ、同居の親族等による保育が出来ないと認められた場合

・特別保育事業

昼間保育事業 午前7時から午後6時

夜間保育事業 午後6時から午後10時

24時間保育事業 全日

育児相談その他の子育て支援事業 午前8時から午後6時

夜間の体制は、保育士2名と子育て支援課男性職員1名があたる

・利用料

昼間保育事業	3歳未満	一回	1,400円
	3歳以上	一回	1,000円
夜間保育事業	一回		800円
24時間保育事業	全日	一回	3,000円
	午後4時から午後8時		2,000円
育児相談その他の子育て支援事業			無料

・利用状況（実績）

平成16年	5,978人	（一日平均	16人）
平成17年	6,998人	（	” 19人）
平成18年	6,132人	（	” 17人）

●その他の子育て支援（主な事業）

上越市では「子育てするなら上越で」と市独自の支援事業を実施している。

☆子育てジョイカード事業

協賛企業として登録いただいている商店、飲食店等で、18歳未満の子ども3人以上を有する世帯に対して、割引や特典などのサービスを提供している。

☆不妊治療費助成事業

不妊治療を行っている方に対し、医療費の一部を助成し、経済的負担の軽減を図る。国は夫婦どちらかへの助成であるが、上越市では夫婦どちらとも助成している。1人5回まで、上限8万円。

☆乳幼児健康支援センター（病後児保育）

病後または病気の回復期における乳幼児又は児童の受入れを実施する。

対象：市内の保育園・幼稚園に在籍の乳幼児

小学2年生までの児童

保育料：1日900円

その他：医師の指示書必要 看護師1名と保育士2名を常時配置

☆ファミリーサポートセンター

育児の援助を行いたい人と育児の援助を受けたい人が、お互いに会員になって助け合う組織づくりを行い、仕事と育児の両立を支援する。

☆こどもセンター

市民プラザの2階に、子どもたちの遊び場、保護者同士の交流の場、育児等の相談及び情報提供の場として開設している。平成19年4月より「NPO法人 マミーズ・ネット」に企画及び運營業務を委託している。

6. 視察所見

ファミリーヘルプ保育園事業は、緊急時に備えて働く女性にとって、また、核家族が増える状況のなかで、安心して子育てができるものである。しかも、自治体が責任をもって実施していることに、「子育てするなら上越で」と説明された職員の気概を感じた。

上越市では、その他にも「次世代育成支援のための行動計画」として市民から寄せられたいろいろな意見をもとに、事業に取り組んでいる。保育料の軽減、子育てジョイカード事業、放課後児童クラブも小学校6年生まで対象者を広げるなど市民の声が活かされている。

京丹後市でも、働く女性の増加、核家族が増えており、若い人達にとって子育ては、大変難しく悩みも大きくなってきている。子どもたちをどう育てていくのか、その一翼を保育所がどう担っていくのかが問われており、保育所政策を充実させて、子育て支援を行っていくことが重要になっている。子育て支援に何が望まれているのか、市民からの意見にしっかり耳を傾け、「子育てするなら京丹後」と言える取り組みを進める必要がある。



ファミリーヘルプ保育園の24時間保育室